

第84回 簿記実務検定第 3 級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	小	口	現	金	当	座	預	金	売	掛	金
貸	倒	引	当	金	有	価	証	券	仮	払	金	備
買	掛	金	当	座	借	越	仮	受	金	商	品	券
資	本	金	売	上	有	価	証	券	売	却	益	仕
貸	倒	損	失	交	通	費	旅	費	消	耗	品	費
雑	費	有	価	証	券	売	却	損				

- a. 事務用のパーソナルコンピュータ ¥330,000 を買い入れ、代金は付随費用 ¥8,000 とともに現金で支払った。
- b. 石川商店は商品 ¥90,000 を売り渡し、代金のうち ¥60,000 はさきに発行した商品券で受け取り、残額は現金で受け取った。
- c. 定額資金前渡法を採用している岐阜商店の会計係は、庶務係に小口現金として ¥30,000 を前渡ししていたが、本日、当月分の支払高について、次のとおり報告を受けたので、ただちに小切手を振り出して補給した。
 交通費 ¥12,000 消耗品費 ¥14,000 雑費 ¥3,000
- d. 売買目的で保有している富山商事株式会社の株式30株（/株の帳簿価額 ¥60,000）を/株につき ¥61,000 で売却し、代金は当店の当座預金口座に振り込まれた。
- e. 得意先北南商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金 ¥20,000 が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥35,000 ある。
- f. 従業員の出張にさいし、旅費の概算額として ¥53,000 を仮払いしていたが、本日、従業員が帰店して精算をおこない、残額 ¥1,000 を現金で受け取った。
- g. 新潟商店に対する買掛金 ¥140,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、当座預金勘定の残高は ¥40,000 であり、限度額を ¥600,000 とする当座借越契約を結んでいる。
- h. 事業規模を拡大するため、事業主が現金 ¥800,000 を追加元入れした。

2

東京商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空欄のままにしておくこと。

取 引

6月/5日 品川商店から貸付金に対する利息 ¥12,000 を現金で受け取った。(伝票番号 No.45)
〃 日 商品代金として中央商店あてに振り出していた約束手形#8 ¥300,000 が本日満期となり、当座預金から支払った。(伝票番号 No.51)

3

- 愛知商店の下記の取引について、
- (1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の当座預金勘定と買掛金勘定に転記しなさい。
 - (2) 仕入帳と買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。
- ただし、
- i 商品に関する勘定は3分法によること。
 - ii 仕訳帳の小書きは省略する。
 - iii 元丁欄には、当座預金勘定と買掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

1/月 6日 静岡商店に対する買掛金の一部 ¥210,000 を約束手形#3を振り出して支払った。

10日 福井商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品	450個	@¥520	¥234,000
B 品	300〃	〃〃200	¥ 60,000

11日 福井商店から仕入れた上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

B 品	10個	@¥200	¥ 2,000
-----	-----	-------	---------

17日 長野商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥280,000 は同店振り出しの小切手#5で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。なお、残額は掛けとした。

A 品	600個	@¥750	¥450,000
-----	------	-------	----------

27日 静岡商店から次の商品を仕入れ、代金の一部については、下記の小切手#7を振り出して支払い、残額は掛けとした。

C 品	500個	@¥630	¥315,000
-----	------	-------	----------

HH0007	小 切 手	名古屋2201 0914-022
支払地 愛知県名古屋市東区徳川1-12-1		
株式会社 全商銀行愛知支店		
金 額	¥200,000	
<small>愛知</small> 上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください 平成〇年 1 月 27 日 振出地 愛知県名古屋市	愛知県名古屋市東区徳川1-12-1 愛知商店 振出人 <u>愛 知 太 郎</u>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">愛知</div>

4

次の各問いに答えなさい。

(1) 山梨商店（個人企業）の下記の資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 期間中の費用総額

b. 期首の負債総額

資 料

i 期首の資産総額 ￥6,500,000

ii 期末の資産および負債

現 金 ￥1,500,000 当座預金 ￥3,530,000 商 品 ￥ 600,000

備 品 ￥ 900,000 買掛金 ￥1,310,000 借入金 ￥1,200,000

iii 期間中の収益総額 ￥6,400,000

iv 当期純利益 ￥ 320,000

(2) 三重商店はA品とB品を販売し、商品有高帳を先入先出法によって記帳している。次の勘定記録と商品有高帳によって、(ア)と(イ)に入る金額を求めなさい。ただし、A品・B品ともに/個あたり￥800で販売している。

総 勘 定 元 帳

売 上

15

平成 ○年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 ま た 貸	残 高
/ 18	売掛金	1		328,000	貸	328,000

仕 入

18

平成 ○年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 ま た 貸	残 高
/ 6	買掛金	1	77,000		借	77,000
/ 12	当座預金	〃	()		()	(ア)

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品 名 A 品

単位：個

平成 ○年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
/ 1	前月繰越	150	600	90,000				150	600	90,000
/ 2	志摩商店	100	600	60,000				()	600	()
/ 18	松阪商店				200	()	()	()	()	()

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品 名 B 品

単位：個

平成 ○年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
/ 1	前月繰越	150	540	81,000				150	540	81,000
6	伊勢商店	140	550	77,000				150	()	()
								140	()	()
/ 18	松阪商店				150	()	()			
					()	()	()	()	()	(イ)

(3) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

仕訳を記入する帳簿を仕訳帳といい、仕訳帳から総勘定元帳へ転記をおこなう。この仕訳帳と総勘定元帳は、すべての取引が記入される重要な帳簿であり、この二つの帳簿を という。

1. 複 式 簿 記 2. 主 要 簿 3. 補 助 簿

5 中部商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 決算整理仕訳を示しなさい。
- (2) 給料勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。ただし、勘定記入は、日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 505,000	当座預金	¥1,529,000	売掛金	¥1,300,000
貸倒引当金	5,000	繰越商品	623,000	貸付金	600,000
備品	1,190,000	支払手形	742,000	買掛金	868,000
前受金	300,000	資本金	3,400,000	引出金	82,000
売上	9,340,000	受取利息	24,000	仕入	6,150,000
給料	1,620,000	支払家賃	732,000	保険料	264,000
消耗品費	57,000	雑費	23,000	現金過不足 (借方残高)	4,000

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥702,000
- b. 貸倒見積高 売掛金残高の3%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 取得原価 ¥1,360,000 残存価額は零(0) 耐用年数8年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

- d. 現金過不足勘定の ¥4,000 は雑損とする。
- e. 引出金勘定の ¥82,000 は整理する。

第84回 簿記実務検定 3級 **商業簿記** [答案用紙]

1	借 方	貸 方
	a	
	b	
	c	
	d	
	e	
	f	
	g	
h		

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		5 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

入金伝票		No. _____	
平成〇年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要	金額		
合計			

出金伝票		No. _____	
平成〇年 月 日			
科目	支払先	殿	
摘要	金額		
合計			

振替伝票				No. _____			
平成〇年 月 日							
勘定科目		借方		勘定科目		貸方	
合計				合計			
摘要							

3 (1)

仕 訳 帳

1

平成〇年	摘要	円	借方	貸方
/ /	前期繰越高	✓	3,981,000	3,981,000

総 勘 定 元 帳

当 座 預 金

2

平成〇年	摘要	仕	借方	平成〇年	摘要	仕	貸方
/ /	前期繰越	✓	230,000				

買 掛 金

8

平成〇年	摘要	仕	借方	平成〇年	摘要	仕	貸方
				/ /	前期繰越	✓	377,000

5

(1)

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		

- (2) (注意) i 給料勘定の記録は、合計額で示してある。
 ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

給	料	16
1,620,000		

(3)

貸 借 対 照 表

中部商店

平成〇年/2月3/日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金		支 払 手 形	
当 座 預 金		買 掛 金	
売 掛 金 ()		()	
貸 倒 引 当 金 ()		資 本 金	
()		()	
()			
備 品			

5	
得点	

借方	貸方	
	借	貸
a 備品	338,000	現金 338,000
b 商品	60,000	売上 90,000
	現金 30,000	
c 交通費	12,000	小口現金 29,000
消耗品	14,000	
雑費	3,000	当座預金 29,000
小口現金	29,000	
(または)	12,000	当座預金 29,000
交通費	14,000	
雑費	3,000	
d 当座預金	1,830,000	有価証券 1,800,000
		有価証券売却益 30,000
e 貸倒引当金	20,000	売掛金 20,000
f 旅費	52,000	仮払金 53,000
現金	1,000	
g 買掛金	140,000	当座預金 40,000
		当座借越 100,000
h 現金	800,000	資本金 800,000

2

科目	受取利息	入金先	品川商店	金額
摘要				
貸付金の利息の受け取り			120000	
合計			120000	

科目	摘要	支払先	金額
摘要			
合計			

3

勘定科目	借方	勘定科目	貸方
支払手形	300000	当座預金	300000
合計	300000	合計	300000

摘要 中央商店あて 約束手形#8 期日支払い

3 (1)

平成〇年	摘要	借方	貸方
/	前期繰越高	3,981,000	3,981,000
6	(買掛金)	210,000	
	(支払手形)		210,000
10	(仕入)	294,000	
	(買掛金)		294,000
11	(買掛金)	2,000	
	(仕入)		2,000
17	諸口(売上)	280,000	
	(当座預金)		280,000
	(売掛金)	170,000	
	(仕入)		170,000
27	諸口(当座預金)	315,000	
	(買掛金)		315,000
	(当座預金)		200,000
	(買掛金)		115,000

当座預金				
平成〇年	借方	貸方	貸方	
/	前期繰越	230,000	127	200,000
17	売上	280,000		
	摘要	借方	摘要	貸方
	1	210,000	前期繰越	377,000
	11	2,000	仕入	294,000
			27	115,000

(2) (注意) 仕入帳と買掛金元帳は締め切ること。

平成○年	摘要	内訳	金額
1 10	福井商店 掛け		
	A 品 450個 @¥520	234,000	
	B 品 300ヶ 〃〃200	60,000	294,000
11	福井商店 掛け返品		
	B 品 10個 @¥200	2,000	
27	静岡商店 小切手・掛け		
	C 品 500個 @¥630	315,000	
31	〃 総仕入高		609,000
〃	仕入返品高		2,000
	〃 総仕入高		607,000

買掛金元帳

福井商店			
平成○年	摘要	借方	貸方
/	前月繰越		92,000
10	仕入れ	294,000	〃
11	返品	2,000	〃
31	次月繰越	384,000	
		386,000	386,000

静岡商店			
平成○年	摘要	借方	貸方
/	前月繰越		285,000
6	支払い	210,000	〃
27	仕入れ	115,000	〃
31	次月繰越	190,000	
		400,000	400,000

4 (1)

a	¥	6,080,000	b	¥	2,800,000
---	---	-----------	---	---	-----------

(2)

ア	¥	137,000	イ	¥	44,000
---	---	---------	---	---	--------

(3)

2					
---	--	--	--	--	--

5

(1)

	借入	方	貸方	方
a	仕入	623,000	繰越商品	623,000
	繰越商品	702,000	仕入	702,000
b	貸倒引当金繰入	34,000	貸倒引当金	34,000
c	減価償却費	170,000	備品	170,000
d	雑損	4,000	現金過不足	4,000
e	資本金	82,000	引出金	82,000

(2) (注意) i 給料勘定の記録は、合計額で示している。
 ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

給料

1/620,000	12/31 損益	1,620,000
-----------	----------	-----------

(3) 貸借対照表

中部商店 平成○年/2月27日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	505,000	支払手形	742,000
当座預金	1,529,000	買掛金	868,000
売掛金 (1,300,000)		(前受金)	300,000
貸倒引当金 (39,000)	1,261,000	資本金	3,318,000
(商品)	702,000	(当期純利益)	389,000
(貸付金)	600,000		
備品	1,020,000		
	5,617,000		5,617,000

(貸倒引当金繰入は、貸倒償却でもよい。)